

裾野市告示第8号

道路の位置の指定基準を次のように定める。

平成18年1月6日

裾野市長 大橋 俊二

道路の位置の指定基準

(目的)

第1条 この基準は、建築基準法（昭和25年法律第201号。以下「法」という。）第42条第1項第5号の規定に基づいて道路の位置の指定を行うについて、建築基準法施行令（昭和25年政令第338号。以下「政令」という。）第144条の4によるほか具体的な基準を定めることにより、良好な市街地の形成を確保することを目的とする。

(指定道路の配置)

第2条 位置の指定を受けようとする道路（以下「指定道路」という。）の配置については、土地利用、交通等の現況及び今後の計画的な市街地形成を勘案して配置に十分留意しなければならない。

(接続道路)

第3条 指定道路は、その両端を他の道路（法第42条に規定する道路をいう。以下この基準において同じ。）に接続しなければならない。ただし、次の各号の一に該当する場合には、袋路状道路（その一端のみが他の道路に接続したものをいう。以下この基準において同じ。）とすることができる。

- (1) 延長（既存の幅員6メートル未満の袋路状道路に接続する指定道路にあつては、当該袋路状道路が他の道路に接続するまでの部分の延長を含む。以下この基準において同じ。）が35メートル以下の場合
- (2) 終端が公園、広場その他これらに類するもので自動車の転回に支障がないものに接続している場合
- (3) 延長が35メートルを超え、終端の転回広場の中心までの距離が70メートル以下である場合で、終端及び区間35メートル以内ごとに自動車の転回広場に関する基準（昭和45年建告1837号）に適合する自動車の転回広場（形状は別図）が設けられている場合
- (4) 幅員が6メートル以上の場合

(指定道路の幅員)

第4条 指定道路の幅員は車道幅員とし、4メートル以上としなければならない。

なお、原則としてガードレール等がある場合にはそれより外側は車道幅員に含めない。

- 2 両端が他の道路に接続する指定道路で区間距離が 100 メートルを超えるものにあつては、車道幅員を 5 メートル以上としなければならない。
- 3 前各号の基準は、通行の安全上支障がないと認められるものについてはこの限りでない。
- 4 U 型側溝で内法寸法が 50 センチメートル以上のもの及び堅固な覆蓋のないものは、車道幅員に算入しないものとする。

(隅 切)

第5条 指定道路が同一平面で交差し、若しくは接続し、又は屈曲する箇所（交差、接続又は屈曲により生ずる内角が  $120^\circ$  以上の場合を除く。）は、角地の隅角をはさむ辺の長さ 2 メートルの二等辺三角形の部分を指定道路に含む隅切を設けなければならない。ただし、次の各号の一に該当し、両側に隅切を設けることができない場合、特定行政庁が周囲の状況によりやむを得ないと認め、又はその必要がないと認め、交通上、安全上支障がない措置を講じることにより、その部分のみは設けないことができる。

- (1) 指定道路を河川、水路等に接して築造する場合で、指定道路が接続する道路の橋梁、欄かん等により隅切ができないと認められる場合
- (2) 指定道路が接続する道路との角地に既存の建築物、堅固な擁壁若しくはがけ等があり、隅切を設けることが著しく困難と認められる場合

- 2 指定道路が他の道路と接続する部分及び指定道路相互の交差はなるべく直角に近いものとし、 $60^\circ$  未満の角度で交差する場合には、底辺の長さが 3 メートル以上となる二等辺三角形の隅切を設けなければならない。

(勾 配)

第6条 指定道路の縦断勾配は、原則として 9%以下とする。

- 2 指定道路が他の道路に接続する部分及び指定道路が相互に交差する部分の縦断勾配は、2.5%以下とし、その延長は次によるものとする。

イ 他の道路に接続する部分 10 メートル

ロ 指定道路が相互に交差する部分 6 メートル

ただし、交差角が  $60^\circ$  未満となる場合にあつては、隅角部が急勾配とならない距離まで延長したものとする。

- 3 指定道路の横断勾配は、原則として 2%以下とする。

(舗 装)

第7条 指定道路は、原則として舗装するものとする。

- 2 指定道路の縦断勾配が 9%を超える部分は、すべり止め舗装等の通行上安全な措置を講じなければならない。

(排水施設)

第8条 指定道路の側溝は、両側に設けることを原則とし、U型側溝にあつてはその内法寸法が 24 センチメートル以上、L型側溝にあつては幅 45 センチメートル以上のコンクリ

ート製で、かつ排水に支障がないものとする。なお、2次製品を使用する場合には申請書に仕様書を添付すること。

- 2 20メートル以内ごとにU型側溝にはグレーチングを、L型側溝には集水柵を設置するものとする。
- 3 指定道路内に設置するグレーチングは、原則として内蓋式とし、T-14以上の強度を有するものとする。
- 4 排水施設の流末は、地区内の下水及び雨水を有効かつ適切に排水できるよう措置したものでなければならない。

なお、周辺の状況を勘案して、一体的に整備する必要がある場合には、周辺地を含めた排水計画としなければならない。

(袋路状道路)

第9条 袋路状道路は、敷地が河川、がけ地等に接し、指定道路を延長することが不可能な場合を除き、原則としてその終端を敷地境まで延長しなければならない。

(指定道路内の通行)

第10条 指定道路内は、通行に支障のないようにしなければならない。

なお、通行に支障がある場合には、指定は行わないものとする。

(電柱等の設置)

第11条 電柱(支柱、支線を含む。)等は、原則として指定道路内に設置しないこと。

(安全施設)

第12条 指定道路が屈曲、がけ等の存する通行上危険を伴うおそれのある個所、又は落石等により当該道路の構造に損傷を与えるおそれのある個所には、ガードレール、柵又は擁壁等の適当な防護施設を設けなければならない。

附 則

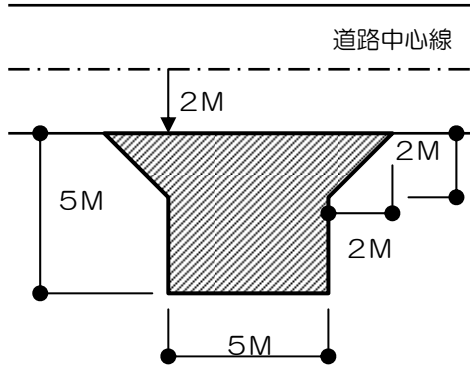
この基準は、平成18年4月1日から施行する。

# 転回広場の形状

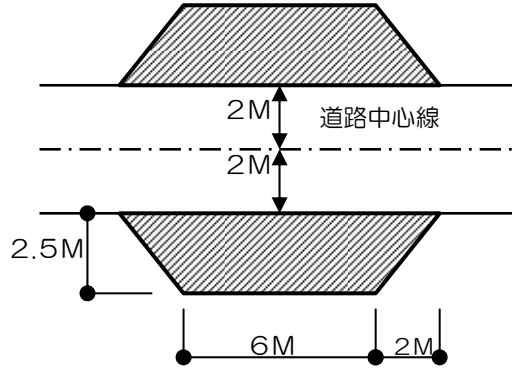
## 別 図

(1) 中間に設けるもの

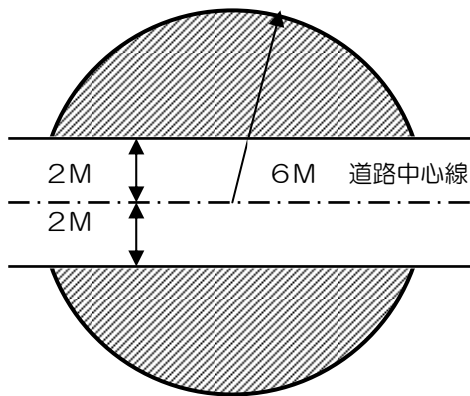
(イ)



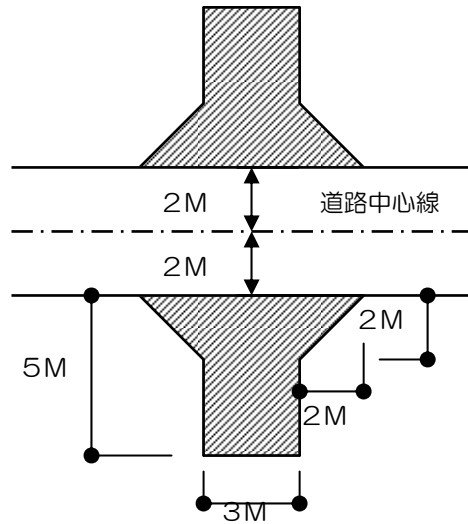
(ロ)



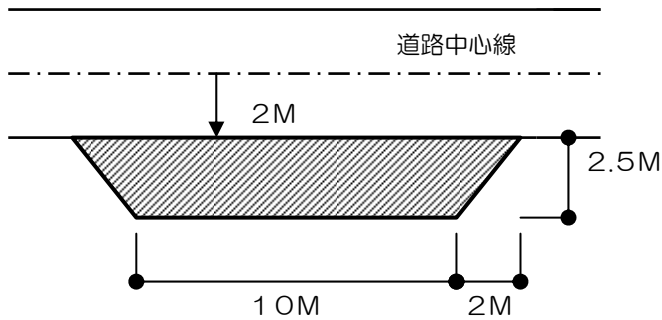
(ハ)



(ニ)

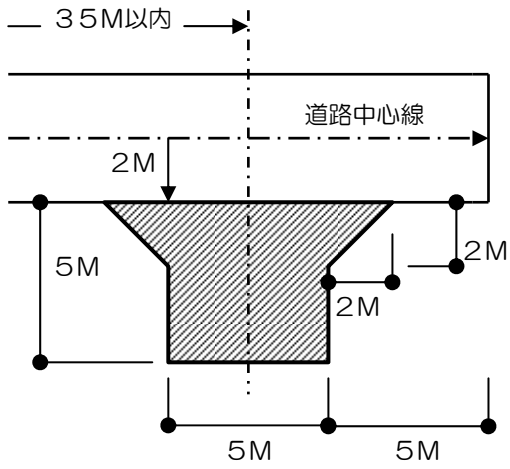


(ホ)

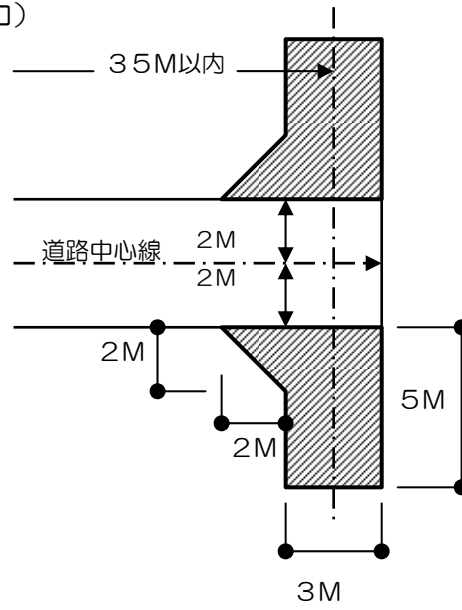


(2) 終端に設けるもの

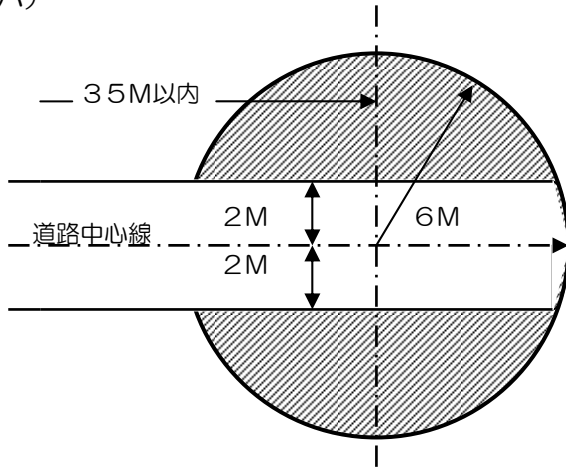
(イ)



(ロ)



(ハ)



寸法は有効幅とする。

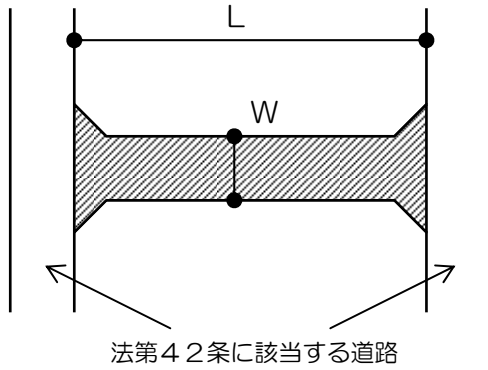
---> 道路延長

# 解 説 (図 解)

## 1 指定道路の構造基準

### (1) 幅員、延長

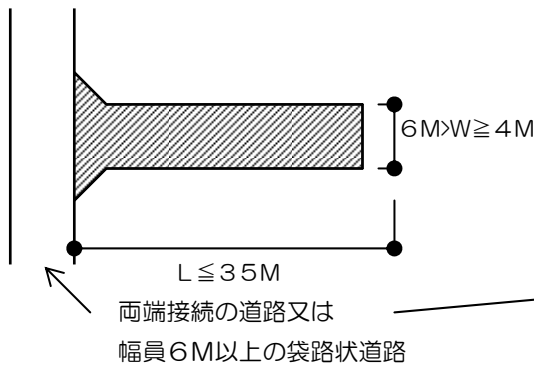
#### ① 両端接続道路



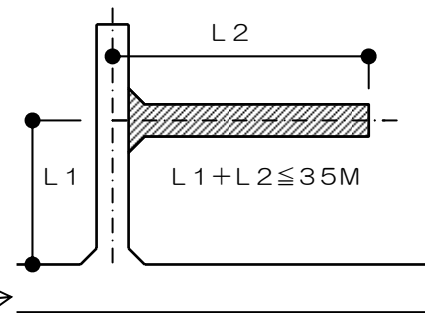
- 延長  $L \leq 100\text{M}$  のとき  
車道幅員  $W \geq 4\text{M}$
- 延長  $L > 100\text{M}$  のとき  
車道幅員  $W \geq 5\text{M}$

#### ② 袋路状道路 (終端を敷地境とする)

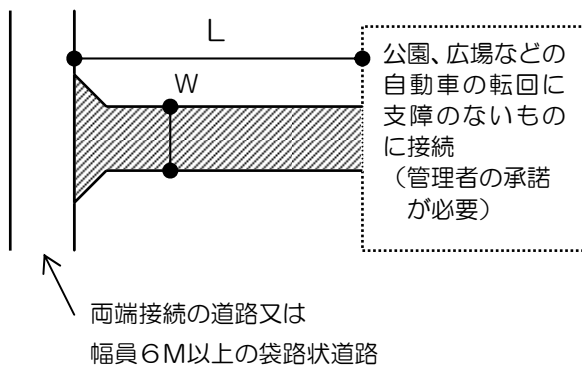
(イ)



接続道路が幅員6M未満の  
袋路状道路の場合

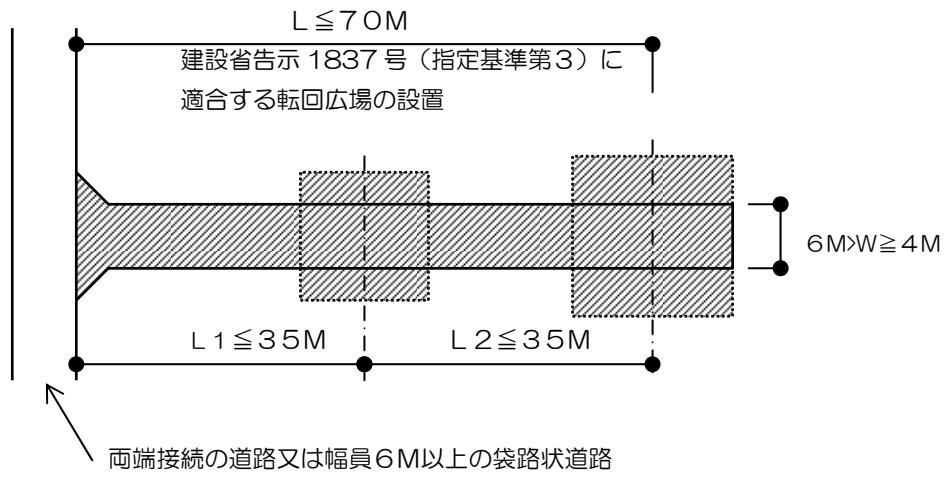


(ロ)

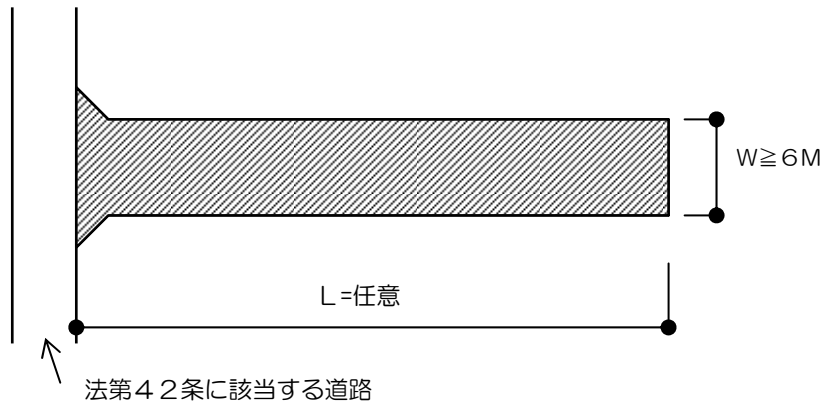


- 延長  $L \leq 100\text{M}$  のとき  
車道幅員  $W \geq 4\text{M}$
- 延長  $L > 100\text{M}$  のとき  
車道幅員  $W \geq 5\text{M}$

(ハ) 延長 (L) が35Mを超える場合



(二)

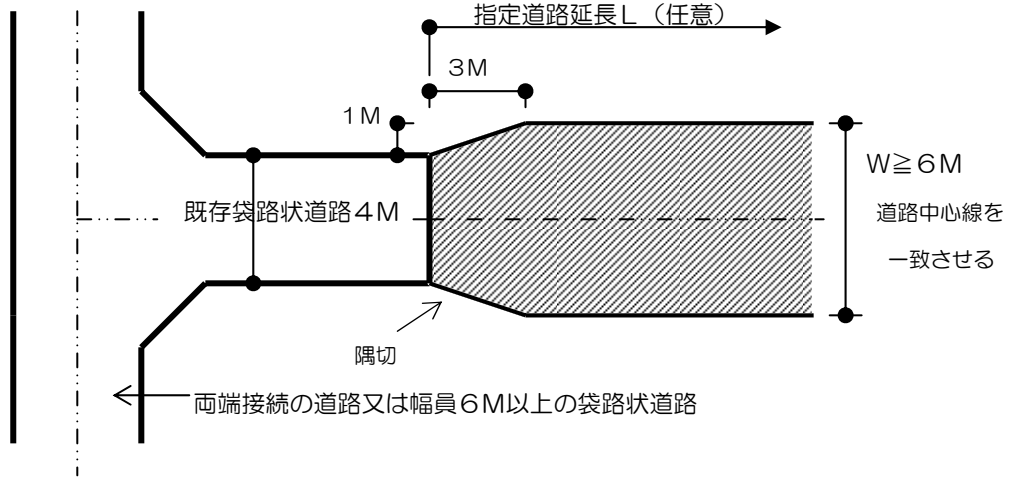


③ 既存袋路状道路（法第42条に該当する道路）の延長

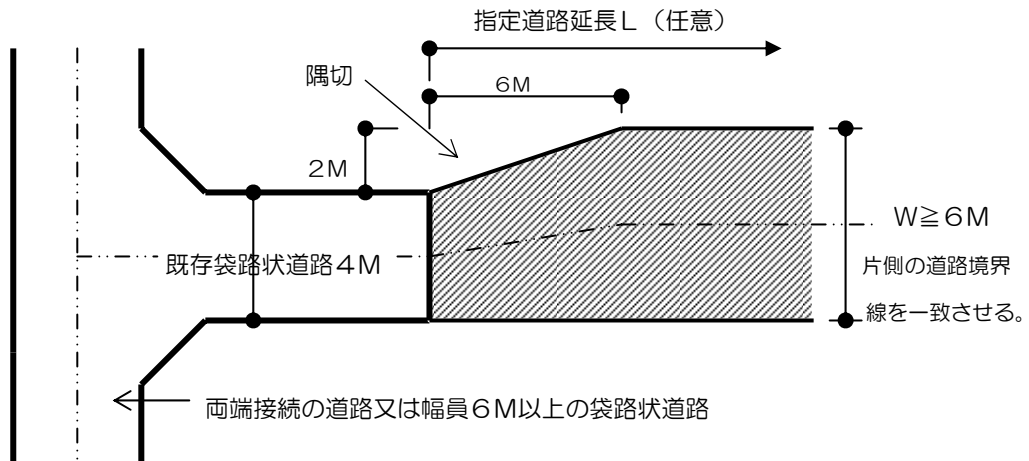
延長は原則6M以上の道路によるものとする。

既存袋路状道路が法第42条第2項の道路の場合は別途協議のこと。

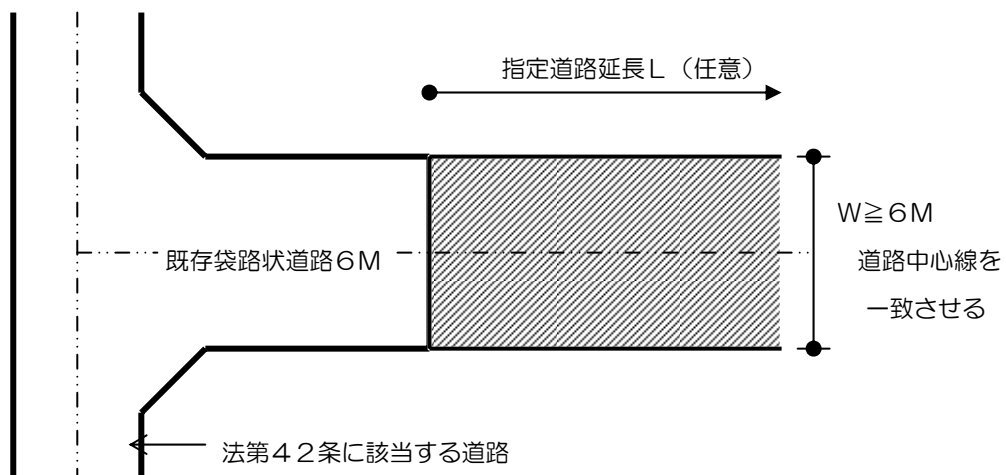
(イ)



(ロ)

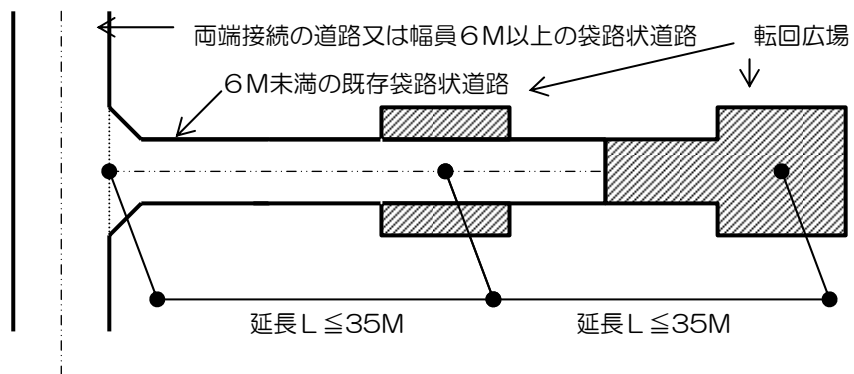
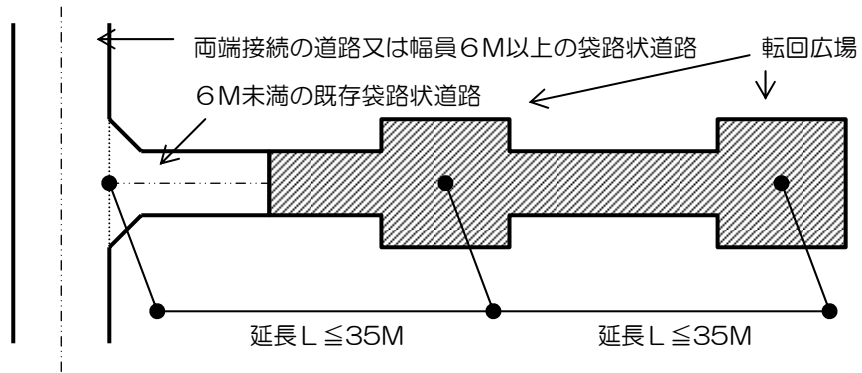


(ハ)



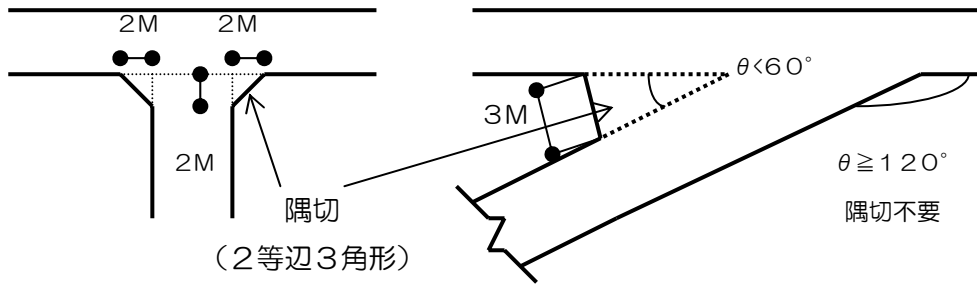


(二) 6M未満の既存袋路状道路をその幅員で延長する場合



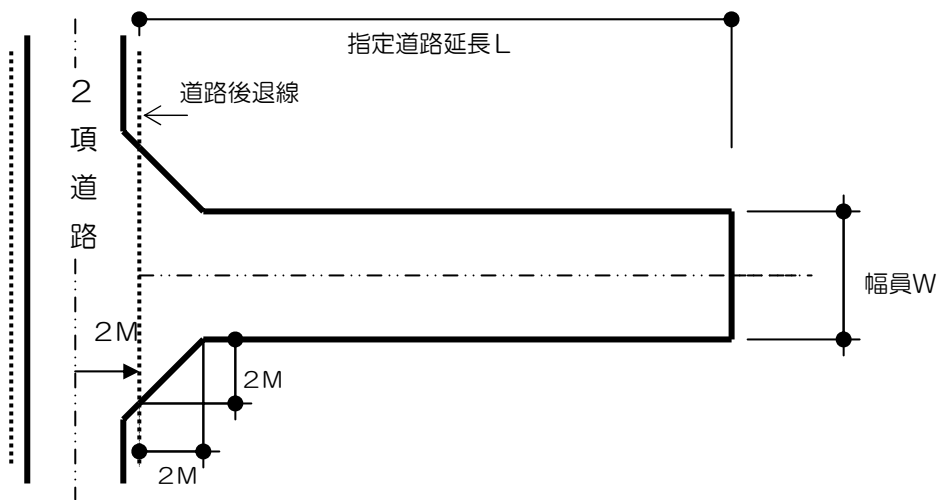
(2) 隅切

① 標準

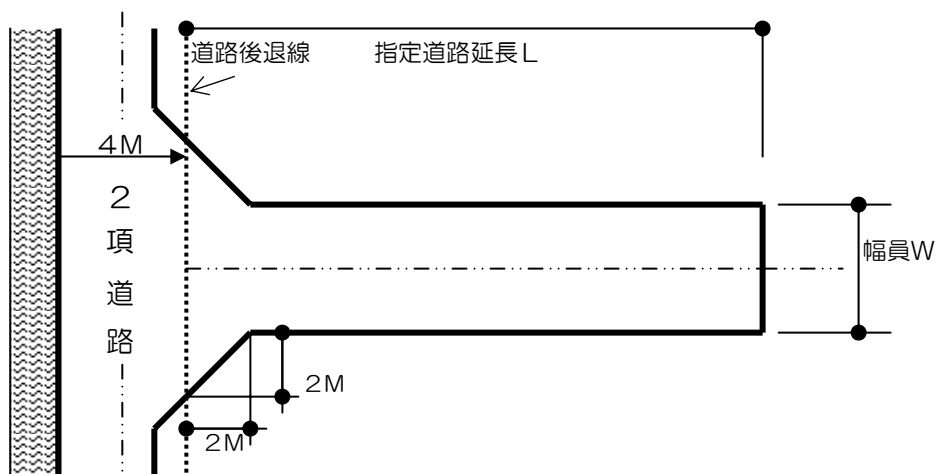


② 法第42条第2項の道路に接続する場合

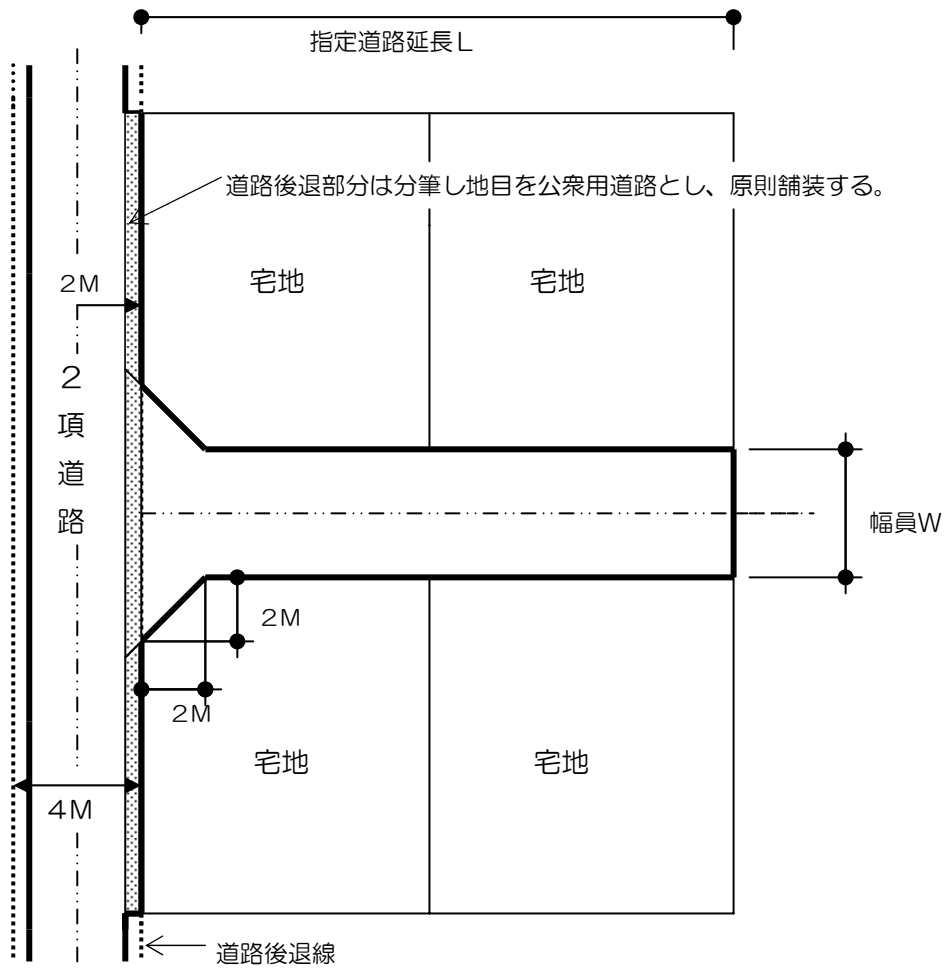
(イ) 一般的な場合



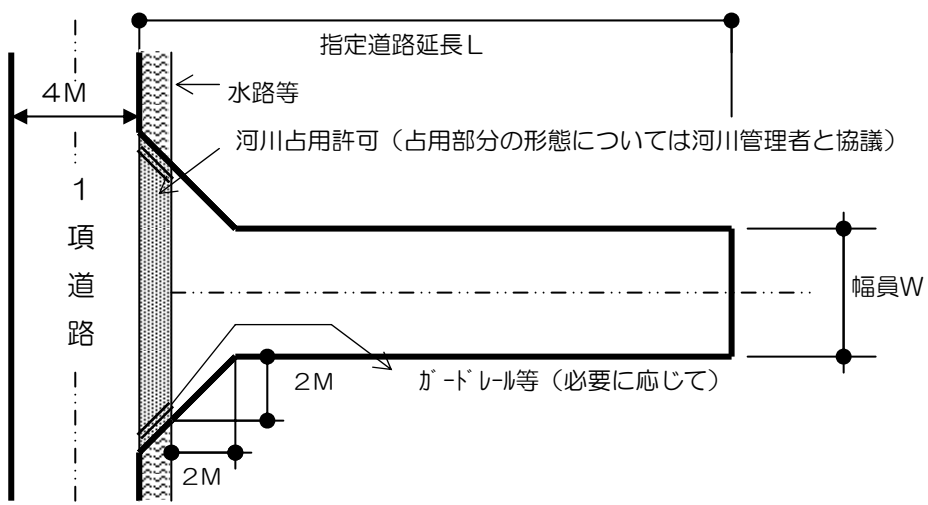
(ロ) 河川、がけ等に接する場合



(八) 開発区域との関係

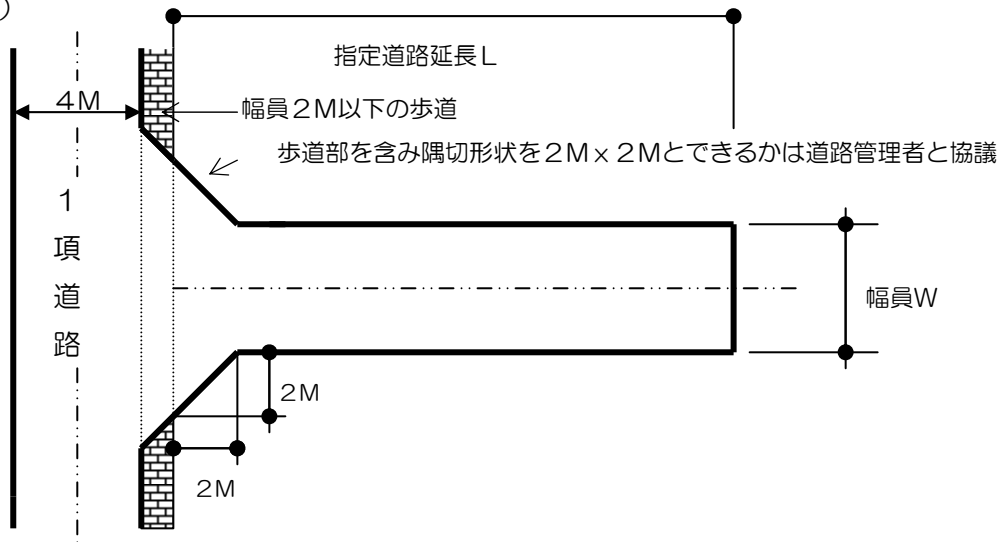


③ 水路を挟んで接続する場合

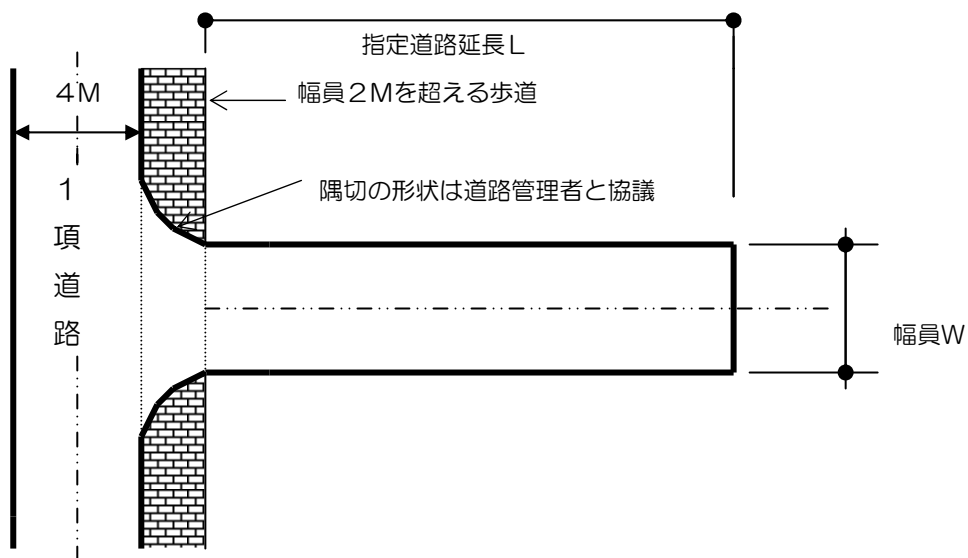


④ 歩道を挟んで接続する場合

(イ)

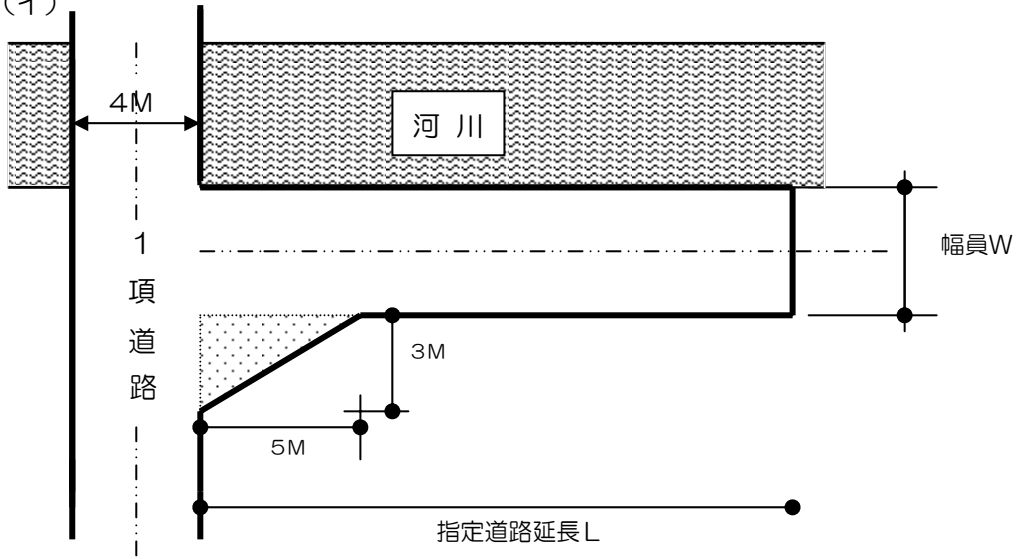


(ロ) 道路管理者と協議により、特定行政庁が周囲の判断によりやむを得ないと認め、隅切を設ける必要がない場合

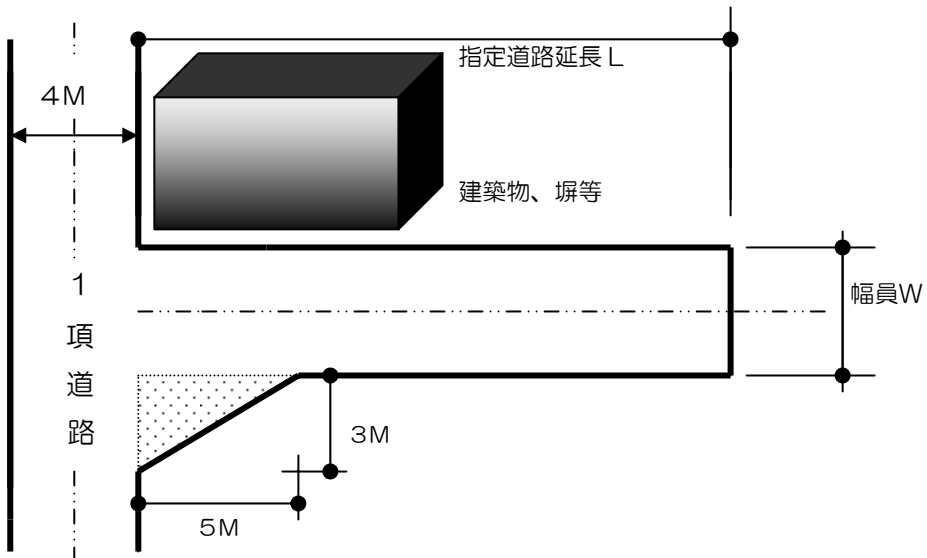


⑤ 片側隔切にできる場合

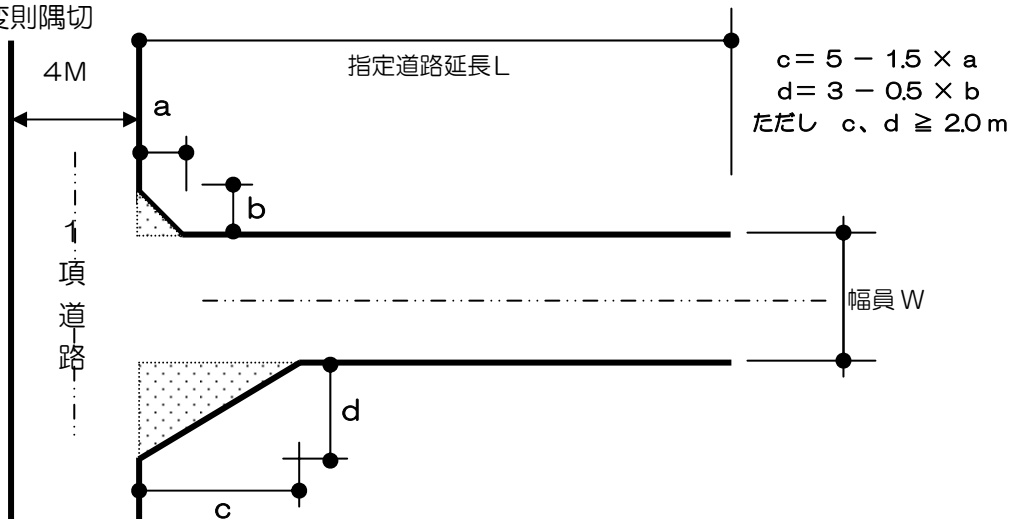
(イ)



(ロ)



⑥ 変則隔切

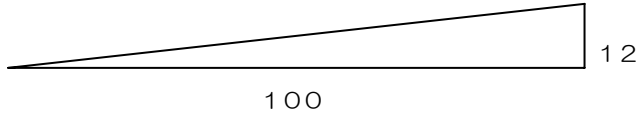


(3) 表面の仕上げ

- イ 舗装
- 砂利敷等ぬかるみとならない構造  
(小規模なもの。)

(4) 縦断勾配

- ① 12%以下かつ階段状でないこと。

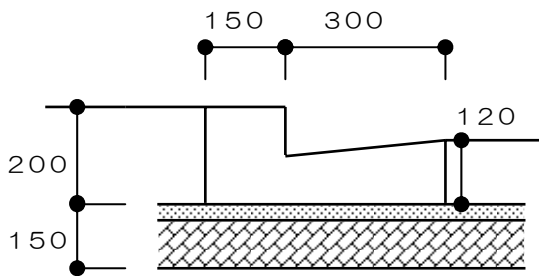


- ② 指定道路は原則として9%以下とする。
- ③ 9%以上の部分の安全処置
  - イ すべり止め舗装
  - 横断側溝 (グレーチング) の設置
  - ハ ガードレールの設置
- ④ 緩衝区間 (縦断勾配  $2.5/100$ )
  - イ 指定道路が他の道路へ接続する部分 10M
  - 指定道路が相互に交差する部分 6M
- ⑤ 曲線部 回転半径が15M未満のもの  
縦断勾配2.5%以下

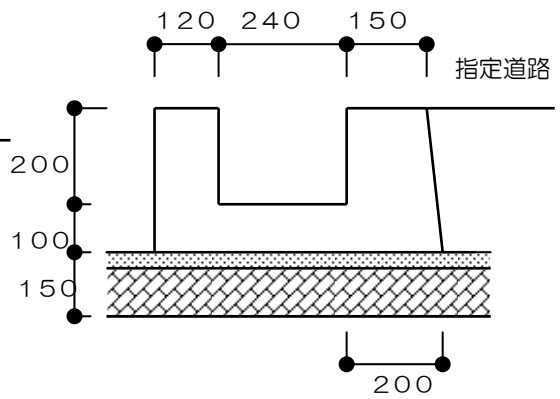
(5) 排水施設

指定道路及びこれに接する敷地の排水に必要な排水施設は次図の構造と同等以上のもの  
とすること。

L型側溝

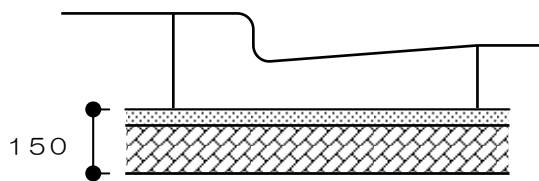


U型側溝



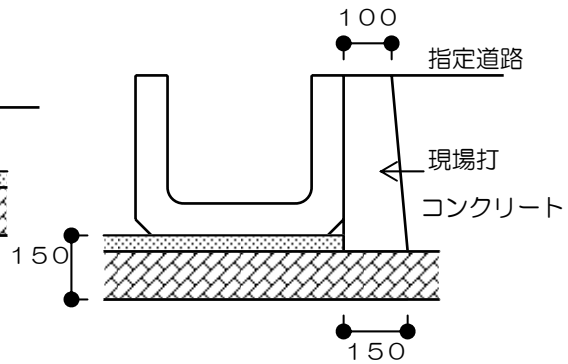
L型側溝（コンクリート二次製品）

鉄筋コンクリートL型 250B、  
300、350のみとする。



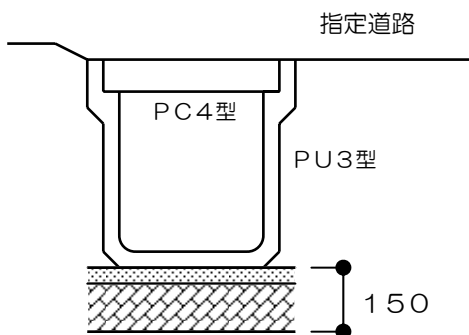
U型側溝（コンクリート二次製品）

鉄筋コンクリートU型（240以上）



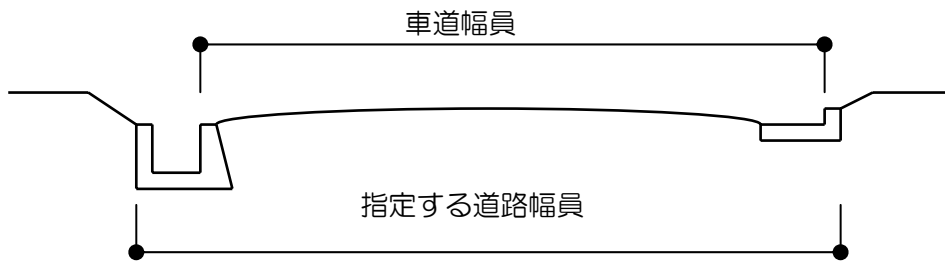
U型側溝（コンクリート二次製品）

道路用<sup>°</sup>キャスト鉄筋コンクリートU型側溝（PU3型）  
道路用<sup>°</sup>キャスト鉄筋コンクリートU型側溝蓋（PC4型）

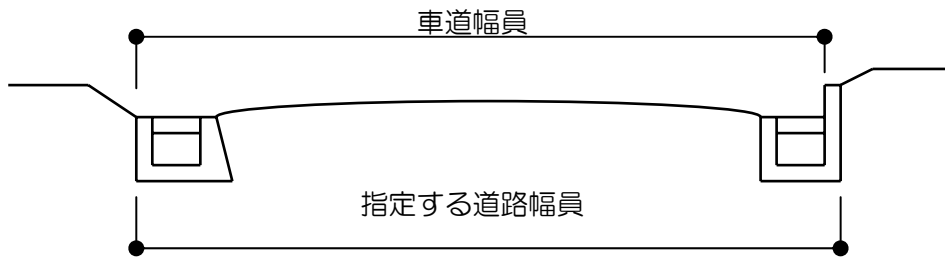


## 2 道路幅員のとり方

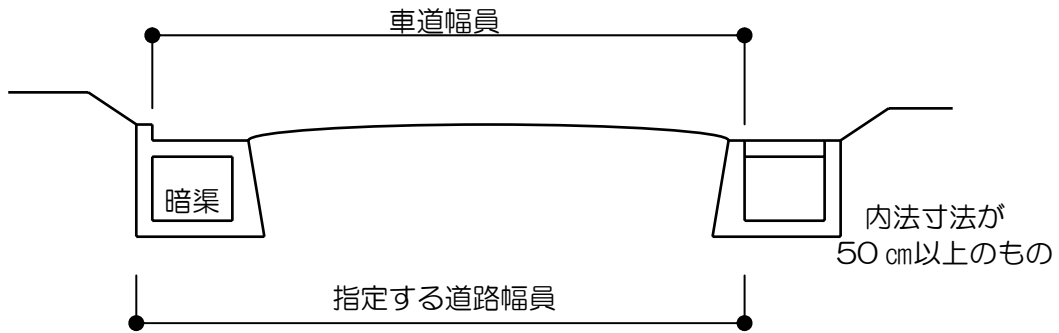
(1)



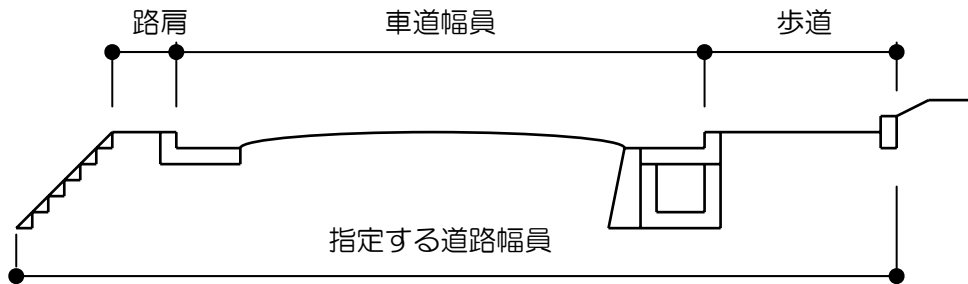
(2)



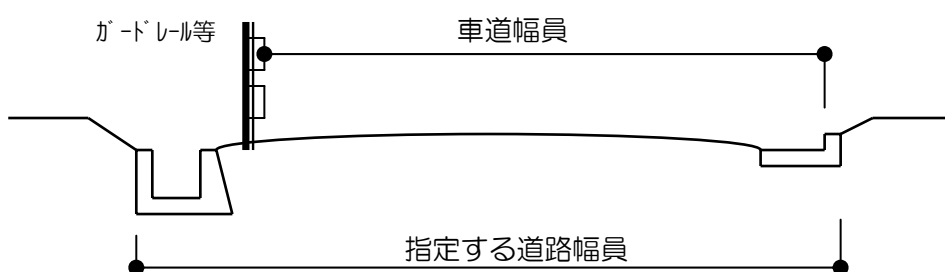
(3)



(4)



(5)



(注) 指定した道路幅員内は建築基準法第44条の建築制限を受ける。



### 3 流量計算

流量計算及び排水施設の断面算定は下記の公式によるものとする。

#### イ 流量計算

$$Q = \frac{1}{360} C \cdot I \cdot A$$

Q : 雨水流出量 (m<sup>3</sup>/sec)

C : 流出係数 (0.9)

I : 降雨強度 100mm/h (50年確率短時間)

A : 排水面積 (ha)

#### ロ 断面算定

クッターの公式

$$V = \frac{N \cdot R}{\sqrt{R+D}}$$

$$Q = A \cdot V$$

V : 流速 (m/sec)

n : 粗度係数=0.013

I : 勾配 (分数又は小数)

マンニングの公式

$$V = \frac{1}{n} \cdot R^{2/3} \cdot I^{1/2}$$

$$Q = A \cdot V$$

N : (23+1/n+0.00155/I) · √I

D : (23+0.00155/I) · n

R : 径深 =  $\frac{A}{P}$

A : 流水の断面積 (m<sup>2</sup>)

P : 流水の周辺長 (m)